

あれこれ情報版



発熱、咳の症状がある方は来院前に電話でご連絡いただけますようお願いいたします。別室での診察となりますことをご了承ください。



今年はインフルエンザの予防接種を日にち指定の予約制にさせていただきました。みなさまにはご不便をおかけいたしましたがお陰様で混乱を避けることができました。ご協力ありがとうございました。



11月より看護師が新しく職場に仲間入りしてくれています。ほぼ毎日診察室の中におりますので、みなさまどうぞよろしくをお願いいたします。



年末年始の休診は以下の通りです。

12月30日(水)と12月31日(木)

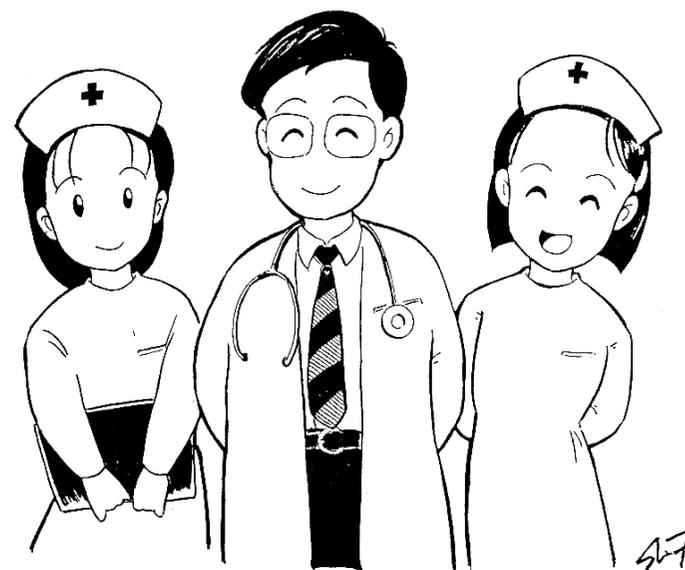
は午前のみ診察します。

1月1日(金)から5日(火)まで休診です。

1月6日(水)より平常通り診察します。

すこやか通信

'20 11-12月号 Vol.139



児島医院

内科・循環器内科・小児科・皮膚科

神戸市東灘区深江北町 2-8-26

☎078-431-0696

診察室こぼれ話

「みずいぼ」という病気は多くの人知っている病気だと思います。子供の時にかかったという人や自分の子供がかかったという人も多いと思います。

みずいぼは伝染性軟属腫という名前で乳幼児に好発する皮膚のウイルス性疾患です。みずいぼという名前のほうが良く知られているかもしれません。

みずいぼはポックスウイルス科に属する伝染性軟属腫ウイルスに感染することにより発症します。皮膚に接種感染して発症するまでの潜伏期間が14～50日程度あります。伝染性軟属腫ウイルスはヒトにのみ感染し、皮膚で増殖し、うつる病気です。患者さんのいぼに、皮膚が触れることにより、ウイルスがうつります。幼児・小児によく生じ、放っておいても自然に治ることがありますが、それまでには長期間を要するため、周囲の小児に感染することを考慮して治療します。この疾患のために、学校を休む必要はありません。

また、プールの水ではうつりませんので、プールに入っても構いません。ただし、タオル、水着、浮輪、ビート板などを介してうつることがありますから、これらを共有することはできるだけ避けてください。プールの後はシャワーで皮膚をきれいに洗いましょう。

伝染性軟属腫に治療については、概ね3つに分けられます。

① 摘除する方法

ピンセットなどで取り除く方法です。唯一確実に治療できる方法ですが、摘除する際に激しい痛みを伴うことが問題です。最近では、局所麻酔薬の貼り薬が、伝染性軟属腫の除去時の痛みの緩和に使用することが保険適応に認められています。ただ、麻酔薬であり、医師の管理のもとで、十分な注意が必要です。また取り除いた跡が残ってしまう可能性も指摘されています。



② 自然治癒を待つ

伝染性軟属腫が自然に治っていくことは良く知られており、これを待つという方法です。ただ自然消失までは少なくとも数ヶ月、長ければ2～5年もかかることがあります。この間は他の人にうつす可能性があり、また痒みのために、掻きむしり二次感染を起こし、伝染性膿痂疹（とびひ）になることもあります。

③ 内服薬、塗り薬など

ヨクイニンという漢方薬がイボを取り除くのに、有効であるとされており、伝染性軟属腫の治療に用いられることがあります。また、液体窒素で凍結する療法、あるいはスピール膏（ウオノメ治療用絆創膏）を貼ってとるなど、種々の方法がありますが、早く、きれいに確実に治療できるという方法はありません。

（加古川医師会、(株) マルホのホームページを参照）